

# 令和元年度 病害虫発生予察注意報第1号

令和元年6月4日  
静岡県病害虫防除所長

病害虫名：カンザワハダニ  
対象作物：茶

## 1 注意報の内容

- (1) 発生が予想される地域：県内全域
- (2) 発生が予想される時期：6月
- (3) 発生程度：多い
- (4) 防除時期：6月上中旬

## 2 注意報発表の根拠

- (1) 令和元年5月中下旬に行った巡回調査では、茶株の摘採面における寄生葉率が県平均7.8%（平成3.3%）と平成より高かった（表1）。地域別では、牧之原及び静岡市北部は、雌成虫の平均寄生葉率がそれぞれ19.8%（平成比7.0倍）及び10.4%（同5.0倍）と特に高かった。
- (2) 本種を捕食する天敵のカブリダニ類の発生状況は、平均叩き落とし数/4カ所が県平均0.6頭（平成1.3頭）と平成より少なかった（表2）。地域別では、富士山麓では2.0頭と平成比1.3倍だったが、他の地域では、平成比0.0～0.3倍と発生は少なかった。
- (3) 茶園が乾燥すると、本種の発生は助長されることが知られている。一方、天敵のカブリダニ類は、茶園の湿度が高くなると増殖することが知られている。4～5月の降水量は平成に比べ少なかったことから、本種が多発したと考えられる。
- (4) 5月30日発表の気象1か月予報では、降水量は平成並～少ないことから、本種が発生しやすい気象が継続する恐れがあり、今後も注意が必要である。

## 3 防除方法

- (1) 発生状況をよく観察し、摘採面で寄生を確認した場合は速やかに防除を実施する。
- (2) 薬剤感受性の低下を避けるため、作用機構分類コードを参照し、異なる系統の薬剤をローテーション散布する（表3）。
- (3) 新芽の生育がばらついている茶園もあることから、薬剤散布時には近隣茶園への飛散防止に努める。
- (4) 多発した茶園では、発生が減少しても乾燥が続く場合、夏期以降に再び発生が増加する可能性があるため、今後の発生に注意する。

表1 5月中下旬における県内各地域のカンザワハダニの発生状況  
雌成虫平均寄生葉率（%）

地域	富士山麓	静岡市 北部	牧之原	小笠・ 磐田原	川根	県全域
本年	2.3	10.4	19.8	5.1	1.6	7.8
平成	5.0	2.1	2.8	3.3	3.1	3.3
平成比	0.5倍	5.0倍	7.0倍	1.5倍	0.5倍	2.4倍

※ 各地域10園地を調査。1園地あたり茶株の摘採面10カ所で各10葉（計100葉）の寄生葉数を調査。

表2 5月中下旬における県内各地域のカブリダニ類（カンザワハダニの天敵）の発生状況

地域	平均叩き落とし数/4カ所（頭）					
	富士山麓	静岡市 北部	牧之原	小笠・ 磐田原	川根	県全域
本年	2.0	0.0	0.5	0.5	0.1	0.6
平年	1.5	0.8	1.9	1.9	0.5	1.3
平年比	1.3倍	0.0倍	0.3倍	0.3倍	0.2倍	0.5倍

※ 各地域10園地を調査。1園地あたり茶株の裾葉4カ所を手で叩き、A4下敷きの上に落下した虫を計数調査。

表3 茶のカンザワハダニに適用のある農薬一覧

商品名	希釈倍数	使用時期	本剤の 使用回数	作用機構分類 コード
粘着くん液剤	100倍	摘採前日まで	-	
アグリメック	1000倍	摘採7日前まで	1回	I : 6
カネマイトフロアブル	1000倍	摘採7日前まで	1回	I : 20B
コテツフロアブル	2000倍	摘採7日前まで	2回以内	I : 13
スターマイトフロアブル	2000倍	摘採7日前まで	1回	I : 25A
ダニゲッターフロアブル	2000倍	摘採7日前まで	1回	I : 23
ダニコングフロアブル	2000～4000倍	摘採7日前まで	1回	I : 25B
ダニサラバフロアブル	1000～2000倍	摘採7日前まで	2回以内	I : 25A
ミルベノック乳剤	1000倍	摘採7日前まで	1回	I : 6
トモノールS	100～150倍	5月～9月	-	F : NC(NC)

※ 静岡県病害虫防除基準 (<http://www.s-boujo.jp/>) より引用。ただし、摘採前日数が7日より長い薬剤は省略した。



図1 カンザワハダニ雌成虫  
(茶業研究センター提供)



図2 カンザワハダニの被害  
(茶業研究センター提供)

問い合わせ先：静岡県病害虫防除所 (TEL: 0538-36-1543)